

正岡子規 略年譜

慶応三年（一八六七年）、九月十七日（陽曆十月十四日）伊予温泉郡藤原新丁（現松山市花園町）に生まれる。本名常規、幼名處之助、通称升（のぼる）。

明治三年、十月妹律生まれる。明治五年父筆太死去。

明治十一年、漢詩を作り始める。北斎の「画道独稽古」を模写。翌十二年には「桜亭雑誌」「松山雑誌」など作る。

明治十三年、松山中学校入学。翌十四年柳原正之（極堂）を知る。

明治十六年、松山中学中退。上京し、翌十七年大学予備門に入学。

明治十九年、このころベースボールに親しみ、熱中する。

明治二十一年、「七草集」に着手、常盤学舎に入る。翌二十二年夏目漱石を知る。五月九日咯血、子規と号す。

明治二十四年、「かくれみの（房総紀行）」「かけはしの記（木曾旅行）」子規生涯の仕事である「俳句分類」に着手。

明治二十五年、新聞「日本」に「獺祭書屋俳話」連載し俳句革新にとりかかる。

明治二十六年、「はてしらずの記（奥羽旅行）」、翌二十七年根岸「子規庵」に移る。新聞「小日本」の編集、和歌（号・竹の里人）の掲載を始める。

明治二十八年（一九八五年）、四月日清戦争従軍記者として遼東半島へ。帰途咯血し神戸での治療を終えて八月松山に帰省。松山中学に赴任中の夏目漱石と「愚陀佛庵」に同居。松山で松風会句会を指導「散策集」をしたため「日本」に「俳諧大要」連載。十月奈良を散策、句作し東京に帰る。

明治三十年、柳原極堂が松山で「ほととぎす」創刊。第一回「蕪村忌」開催。翌三十一年からは高浜虚子によって東京で発刊。

明治三十一年、「日本」に「歌よみに与ふる書」連載し短歌革新に取組む。

明治三十二年から写生画を始め「秋海棠」を最初に最晩年まで続く。

明治三十四年、「墨汁一滴」連載。八月「仰臥漫録」を書き始める。病状悪化。

明治三十五年（一九〇二年）、「日本」に「病牀六尺」連載。絵を続け「果物帖」「草花帖」「玩具帖」を残す。九月十八日「絶筆三句」九月十九日未明、母・八重、妹・律、高浜虚子、伊藤左千夫らに見守られ永眠（三十四歳と十一ヶ月）。九月二十一日、田端・太籠寺（現東京北区）に葬られる。

（キリトリ線）

家庭に、学校に、職場に
あなたの生活の中に
「子規事典」をお手元に！

松山子規会「松山子規事典」申込書

平成29年8月末日まで
予約販売価格 4,000円（消費税別）
※定価 4,500円（消費税別）

◇申込数（ ）冊

◇お名前

※いずれかに○印を 1. 松山子規会員 2. 会員でない

◇ご住所（お届け先）
〒

◇連絡電話

— 下記、お差し支えなければご記入願います —

◇年齢 歳 ◇性別 男・女

◇俳句・文学・その他の所属団体・結社名

◇「子規事典」へのお言葉ございましたら

「松山子規事典」予約募集中！

平成29年4月中旬から同年8月末日まで

上記期間中予約の方は下記販売価格となります。

◇予約販売価格 4,000円（消費税別）

*配達ご希望の方の送料は別途

「子規事典」予約ご希望の方は、本冊子添付の
「申し込みはがき」のご利用、

又は、松山子規会会員迄お申し込み下さい。

*お近くの「明屋書店」でも予約できます。

「子規事典」及び「松山子規会」等お問い合わせ先

松山子規会事務局長・鳥谷照雄（☎090-7140-8207）

*頂きましたお名前・ご住所などは、「子規事典」
関連の連絡で使わせていただき、「松山子規会」
で管理いたします。

No.007235